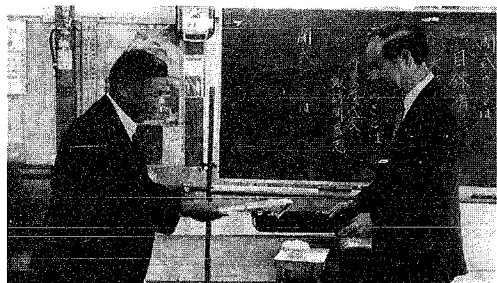


皆さんの情報をお寄せください
38-3111(内線252)



ご厚志に感謝

藤宮 フミ様

このたび、花園町の藤宮フミ様より福祉に役立ててもらいたいとのことでご厚志をいただきました。このご厚志につきましては小須戸町社会福祉協議会から福祉のために有効に役立てていただき、町民の福祉思想の醸成度を高めていきたいと考えております。ありがとうございました。

大光銀行様

大光銀行(本社長岡市)が平成四年に創立五十周年を迎えたことを期に行っている社会福祉事業に対する寄附事業で今回、当町のほほえみ作業所が選ばれ、三十万円のご厚志をいただきました。当作業所ではこのご厚志を社会福祉のために大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

花とみどりのシンボルゾーン キャラクターニックネーム

ご応募ありがとうございます 応募総数 **392名 456点**

“うららちゃん”
に決定

小須戸町の花展示即売所花ステーションなどがある花とみどりのシンボルゾーンのマスコットキャラクターのニックネームを公募したところ、町内外392名456点の応募がありました。

厳選なる審査の結果、春や花を連想させる“うららちゃん”に決定しました。キャラクター名を考えてくださったお二人には「花とみどりのシンボルゾーンチケット(2万円分)」を贈らせて頂きます。また、応募くださった方の中から20名の方に「町特産品詰め合わせ」を贈らせて頂きます。

花ステーション買い物券(2万円分)

小須戸町 うでこき 吉岡温子さん
新潟市 山の下 川崎紀男さん

町特産品詰め合わせ

小須戸町 新保 丸山郷子さん
見附市 本町3 内山ゆかりさん 他18名
(役場玄関、花ステーションにて貼付してあります)



暮らしと電気安全



落雷に注意しましょう

7月

文月

長い梅雨もようやく明け、本格的な夏を迎えます。山や海、キャンプや釣りなど、アウトドアレジャーの最盛期です。大いに楽しみましょう。

ただ、この時期は気象状態が不安定で雷が発生しやすい季節です。ゴルフや登山などで雷による死傷事故のニュースがよく報道されます。ピカッと光ってからゴロゴロと聞こえるまでの時間で、まだ遠いなどの判断は危険です。

雷鳴が聞こえたらいち早く安全な場所に避難することが必要です。

職員を募集します

平成14年度小須戸町職員を募集します。

平成14年度小須戸町職員を次の要領で募集します。

採用職種及び人員

一般事務職 1名

応募資格

昭和51年4月2日から昭和59年4月1日までに生まれた者

応募期限

平成13年7月31日(火)
午後5時まで(土、日曜日は受付しない。)
(郵送の場合は7月30日の消印のあるものまで有効)

申込書類

受験申込書 1通

申込場所

小須戸町役場総務課庶務係

採用試験

第一次試験

(新潟県町村人事事務組合委託)

期日 平成13年9月16日(日曜日)

場所 新潟市立上山中学校
(新潟市女池211-3)

方法 高等学校卒業程度の内容で地方公務員としての必要な一般的知識及び技能による教養試験として択一式による筆記試験と作文試験及び職員としての適応性について択一式による事務適正検査

発表 平成13年10月下旬までに本人宛通知第二次試験(小須戸町長執行)

第一次試験合格者に対し、11月上旬までに小須戸町役場において面接口述試験

採用内定者決定

11月中旬本人宛通知

採用年月日

平成14年4月1日

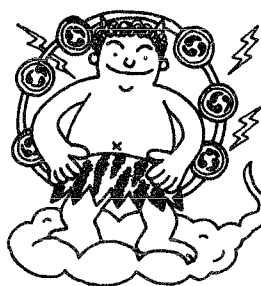
給与 小須戸町職員の給与に関する条例による。

※ 受験申込書は、小須戸町役場総務課庶務係に請求して下さい。

送り梅雨



一か月あまり続いた梅雨も、七月に入るとそろそろ明け始めます。梅雨明けの平年日は、九州南部が七月十三日ごろ、関東甲信が、七月二十日ごろ、東北南部が七月二十三日ごろです。
近畿地方の梅雨明け平年日は七月十七日ごろで、折しも京都では祇園祭りのハイライト、山鉦巡行が催されます。この日からの一か月が「京都の真夏」と言われており、これが、まさに梅雨と真夏を分ける行事といえましょう。
ところがこの日はよく雷雨や大雨に見舞われます。梅雨が明けようとしてくるとき、あるいは明けた直後に、いつとき降りしきる強い雨——これを「送り梅雨」と呼んでいます。



季節の境目となる送り梅雨は、しばしば雷を伴い、それがいつそ梅雨を送りだす力を感じさせます。しかし一方で、雷は大雨の恐れありという注意信号でもあります。
夏の雷雨はふつと、日中の強い日差しに暖められた空気が上昇気流となり、積乱雲が発生させて起こりますが、夜や朝に鳴る雷は、時として集中豪雨のような激しい雨をもたらします。昔のことわざに「朝雷に川渡りすな」というのがあります。
朝に雷が鳴るようなときは、目の前で雨が降っていないなくても、川の上流では大雨の恐れがあると、川渡りする旅人に注意を促しているのです。時代は変わっても、この経験訓は変わりません。心に留めておきたいものです。